

企画セッション

◆イノベーション促進に貢献するパスツール型研究者とチームビルディングへの応用展開◆

【パネリスト】敬称略・五十音順：経歴等は次ページ参照

伊神正貫（文部科学省 NISTEP 科学技術予測・政策基盤調査研究センター長）

高田 仁（九州大学 経済学研究院 産業マネジメント部門教授）

開本 亮（大阪工業大学 学長室 知的財産アドバイザー）

【モデレータ・司会】敬称略：経歴等は次ページ参照

妹尾堅一郎（NPO 法人 産学連携推進機構 理事長）

【概要】大学等における科学技術研究は、その高度化に伴い複数の研究者から成るチームで行うものが大半を占める状況となっている。したがって、各研究者の個性を理解・尊重し、活性度の高いチームビルディングを行うことはイノベーションの促進に重要である。それに対する示唆として、ストークス（D. E. Stokes）は、各研究者の個性を研究へのモチベーションによってボーア型・エジソン型・パスツール型の3つに分類することを提唱し、パスツール型は「真理探究」と「社会実装」の双方をモチベーションとして重視するのでイノベーションの促進に大きな役割を果たすとした。

しかし、パスツール型研究者について、どのような研究者が該当し、日本の大学における存在はどの程度であり、いかなる貢献が期待できるのかについて、理解が進んでいないとは言えず、従って活性度の高いチームビルディングへの処方箋も見えていない。

そこで本セッションでは、まず伊神正貫氏により、日本の大学の研究プロジェクトに関するアンケート調査等から、研究へのモチベーションが研究マネジメント・チーム構成・研究成果に与える影響等についての知見を発表いただき、「真理探究」は必ずしも商業化の可能性を低下させず、「社会実装」は被引用論文数を必ずしも下げないという分析結果から、二兎を追う者としてのパスツール型の重要性を指摘いただく。

次に高田仁氏により、パスツール型研究者と、該研究者が関与する大学発ベンチャーの関係性に着目し、研究者における基礎と実用化の両面を重視する価値観の形成、ベンチャー設立の経緯やきっかけ、ベンチャーと研究室とが適切に役割分担する上での工夫や課題を、事例分析を通じて明らかにしていただく。

更に開本亮氏により、研究者タイプを人工知能によって判定する客観的方法と、それを用いたチームビルディングの効果を、実証データを交えて発表していただく。特に研究チームにおける3タイプの研究者のチームビルディングについて、数理モデルを用いた知財創出の予測シミュレーションについても最新の結果を略説いただく。

むすびの討論では、モデレータ・妹尾堅一郎氏の司会により、画期的な共同研究成果を創出するために、異質な研究者同士をいかに構成するか、また互いの個性を理解・尊重しつつ如何に活動するか等に関して様々な角度から討議を行うと共に、妹尾氏にも本研究のビジネス・イノベーションへの示唆・意味に関してご発言をいただく。

企画セッション

◆イノベーション促進に貢献するパスツール型研究者とチームビルディングへの応用展開◆

【パネリスト】（敬称略・五十音順：）

伊神正貫（いがみ まさつら）文部科学省 NISTEP 科学技術予測・政策基盤調査研究センター長
カーボンナノチューブやナノグラフィットの研究を経て、2002年から科学技術政策研究に従事、2021年より科学技術・学術政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センター長。博士（工学）。日本の科学技術の現状や現場の声を政策立案の場に届けるべく、科学技術システムの定点観測、科学における知識創出プロセスの分析、科学研究のマッピング、特許分析などを実施。最近の関心事項は、科学知識が生み出されるプロセスの理解とそれに基づくインセンティブ設計、研究活動の観点からみた日本の大学システムの生態系の理解など。

高田 仁（たかた めぐみ）九州大学 経済学研究院 産業マネジメント部門教授

1990年九州大学卒、大手メーカー勤務後に九州大学大学院に進学。修士（工学）。コンサルティング会社を経て、CASTI（現東大 TLO）取締役副社長。2003年九州大学大学院経済学研究院産業マネジメント専攻（QBS）助教授。同年10月から2010年まで知的財産本部技術移転部門長を兼務。2005年から2010年まで総長特別補佐を兼務。2009年MIT客員研究員。2010年ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター（QREC）を兼務。2014年QBS教授。2015年から2017年3月までQBS専攻長。2019年からQRECセンター長を兼務。2020年から2024年3月まで副理事（経営改革、アントレプレナーシップ教育、産学官連携担当）。2020年2023年3月まで再びQBS専攻長。RTTP（国際認定技術移転プロフェッショナル）

開本 亮（ひらきもと あきら）大阪工業大学 学長室 知的財産アドバイザー

1980年京都大学工学修士取得後、日立製作所原子力事業部、島津製作所知的財産部担当部長を経て、2011年京都国際特許事務所・副所長、2013年同志社大学研究開発推進機構准教授、2014年神戸大学連携創造本部知財部門長・教授就任。この間、1994年京都大学論文博士（工学）、2006年弁理士登録、2011年神戸大学法学修士（知的財産法）、2012年神戸大学経営学修士（MBA）等を取得。現在、大阪工業大学知的財産アドバイザー、INPIT 知財戦略プロデューサーを務める。所属学会は研究・イノベーション学会、日本知財学会、RA 協議会、経営情報学会。ライフワークとして大学論文からの知財発掘やそれによる戦略的産学連携等を探究中。

【モデレータ・司会】（敬称略）

妹尾堅一郎（せのお けんいちろう）【NPO法人 産学連携推進機構 理事長】

慶應義塾大学経済学部卒業後、富士写真フイルム(株)勤務を経て、英国国立ランカスター大学経営大学院博士課程満期退学。産能大学助教授、慶應義塾大学大学院教授、東京大学先端科学技術研究センター特任教授の他、九州大学、一橋大学大学院MBA、長野県農業大学校等の客員教授を歴任。日本知財学会諮問委員（前理事）。CIEC（コンピュータ利用教育学会）終身会員（元会長）。研究・イノベーション学会参与（元副会長）。内閣知的財産戦略本部専門調査会会長、農水省技術会議委員、警察庁政策評価研究員等を歴任、複数企業の社外取締役を兼務。著訳書多数。現在も東京大学で大学院生や社会人を指導すると共に、企業研修やコンサルを通じてイノベーション、ビジネスモデル、知財マネジメント、新規事業開発等の指導を行っている。